

想いをつなぐ、人をつなぐ

現代社会系

コミュニケーション学科2年 佐藤 玲香 | 藤島高校出身 |

将来、公務員となって地域の役に立ちたいという想いがあって、「地域活性化」について学べる現代社会系を選びました。今、取り組んでいる授業の一つに「現代社会研究Ⅰ」があります。社会学文献講読の授業なのですが、そのなかで、一冊の本を選んで自分の住む地域の現代と過去を社会的に比較し考察する課題が出ました。私が選択した本は「福井市史」。テーマは福井空襲とその後の復興です。資料はかなりの量ですが丹念に読み解くことで、私なりの考察を提示したいです。一つの物事をそれぞれ単体で済ませず、他のことと絡めて考える視点は、きっと自分の夢の役に立つと考えています。

将来は、公務員になって、地域活性化に携わりたい。

英語コミュニケーション系

コミュニケーション学科4年 藤田 理沙 | 仁愛女子高校出身 |

く、伝える道具になります。私は小学校4〜6年生までインドネシアに住んでいた経験があり、海外の文化に対して強い興味を持ちました。その結果、英語が好きになりました。先生になれたら、子どもたちに、英語を使って何かを伝える楽しさを教えてあげたいです。

英語教員になりたいくてこの系を選びましたが、教職科目以外でも、面白い授業がたくさんあるので選んで良かったと思っています。例えば「ビジネス英語研究b」。日本の商品を海外に売り込むために他国の文化について考えました。目的があると、英語は勉強の対象ではな

目指すは、英語教員。「伝える楽しさ」を教えたい。

企画・表現系

コミュニケーション学科4年 堀江 悠平 | 武生商業高校出身 |

遊びながら、というと語弊がありますが、それくらい楽しみながら学べるのが企画・表現系ではないでしょうか。印象に残っているのは、「コミュニケーション技法Ⅱa b」という授業で出された課題です。武生駅周辺にある、面白いと感じたものを、その理由とともにレポートにまとめる内容でした。僕は、100個以上の壺が玄関先に並ぶ家や、顔が猿で体がライオンの銅像などを見つけ、その関係者に取材しました。普段何気なく存在する物を見つめる力、論理的な質問をして聞いて調べる力など、知らないうちに鍛えられたように思います。

面白いを見つけ、まとめる。何かが、鍛えられている。

COM NEWS

2013 August
現代社会系

社会調査演習レポート | 地域活性化への第一歩

現代社会系の社会調査とは？

協働を通して、
地域のリアルをとらえる。

調査分析・考察のスペシャリストを目指す、現代社会系。その二連の流れを実践するのが「社会調査演習」です。今回は、社会調査そのものの意味と、地域のイベント協働を通して見える意義と成果を、島岡准教授にお聞きしました。

調査技術、複眼的視野、傾聴力。得られるのは、それだけじゃない。

社会調査とは、一般的には、インタビューやアンケートでデータを収集・解析することで、対象となる人物や事象の説明をする作業です。私は、社会調査教育の一環として、地域との協働を通じたア

クション・リサーチを取り入れています。もともとある地域イベントに協力しながら、地域の生の声を聞き、実態を確認していきま

や、質問紙作成、統計などの調査スキルを身に付けます。

実例としては、福井市秦地区での調査が挙げられます。近年取り

組んだのは、「歩こう会」。イベント協働の過程では、古い神社の由

来や伝説・伝承など、地域外の人間だからこそ面白いと思つた地域

資源の掘り起こしと活用も行われました。昨年までは歩くだけだったイベントに、スタンブラリー

(学びの要素と「お弁当 おかず 探しの旅」遊びの要素を加えた

ところ、参加者が前年より30%増えたと喜んでおられました。これ

らの過程で掘り起こした地域資源を地域に還元することも大切で

す。さらに、社会貢献型の社会調査として、東日本大震災からしばらくの間、放射線量が高いために

子どもが外で遊べなかつた福島県二本松市へ足を運ぶと

もに、地域のNPOや支援団体が行う福島の子どもの

ちを福井に招いてのサマーキャンプにも、ボランティア

アとして参加しています。これらの実践を通して、学

生たちは調査のスキルだけでなく、多様な視点を獲得し

ています。



島岡 哉
准教授



秦地区の方々とともに歩きながら、地域調査を進める。写真は「メダカ園」の様子。



コミュニケーション学科で
取得可能な
免許と資格

- 中学校教諭一種免許状(英語)
- 高等学校教諭一種免許状(英語)
- 社会調査士
- ※TOEIC受験も支援します。



福島の子どもたちを招いたサマーキャンプ in 福井に参加



現地について教えてくれる福井市秦地区の方々

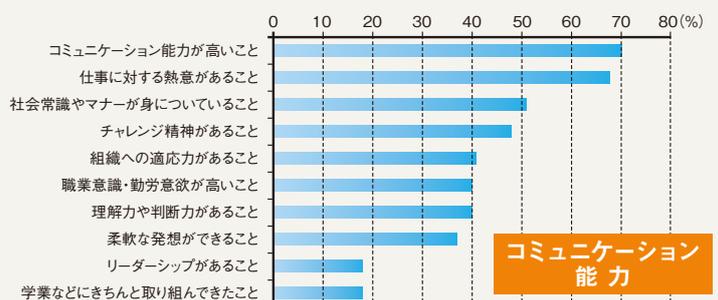


イベント「歩こう会」の締めくくり、秦地区の歴史、自然、民俗、産業などに関するクイズ大会のひとつ。

データで見る、コミュニケーション力

地元が重視する、コミュニケーション力。

右のグラフは、今年2月に行われた学内合同企業説明会に参加した福井県の企業113社を対象に行った調査の結果(回答80社)を表したものです。企業が、大学の新卒者を採用する際に重視する能力を表しています。学生に求めている能力の第1位は、「コミュニケーション力」なのです。



※仁愛大学人間学部コミュニケーション学科「大学生の新卒採用に関するアンケート調査」2013年2月